

第2期岩手中部水道企業団水道ビジョンパブリックコメントの実施結果

1) 実施結果

意見の提出者数 1人

意見数 2件

2) ご意見への対応

(1) ご意見として、今後の参考とするもの 2件

3) 意見の概要と企業団の考え方

意見の概要	企業団の考え方
<p>管路、配水池の耐震化率の目標が低いのではないかと。</p> <p>「アセットマネジメントに基づく管路更新率を0.85%」としながら、目標設定年度の更新率はこれを下回る数値となっている。「重要度の高い大口径の路線を優先して更新する」としているが、口径の大小も重要ではあるが、管路の劣化診断を取り入れるなど、より緊急度の高い管路の更新をするべきではないかと。</p>	<p>管路の耐震管率及び配水池の耐震化率は、施設数が膨大にあるため耐用年数等を考慮し、計画的な耐震化を図ることが可能な目標値として設定しており、目標が低いとは考えておりません。</p> <p>管路の更新は、管路更新計画において口径の大きさ等の重要度と劣化診断による老朽度等を総合的に評価し、緊急度の高い路線から優先して進めております。今後も新技術の動向を継続的に注視し、効率的かつ効果的な水道施設の耐震化と更新を進めて参ります。</p>
<p>リダンダンシーの確保として「岩手中部浄水場の2水源化」と「広域ループ管の整備」が計画され、今回のビジョンで最も特徴的な事業と考える。示されている事業費は総事業費か、それとも令和17年度までの事業費か。ループ管の整備は設計のみの事業費か。リダンダンシーに関する国の補助制度があるようだが、財源としてどれだけ見込んでいるのか。</p> <p>経営の健全化を課題としているが、示されている巨額の投資は水道料金にも影響すると考える。人口減少社会に向けて、必要性を精査したうえで慎重に進める必要があるのではないかと。</p>	<p>水道ビジョンに示している事業費は、総事業費ではなく、計画期間である令和17年度までの事業費です。また、計画期間における広域ループ管の整備事業は、調査設計までを予定しております。なお、現行のリダンダンシーに関する補助制度については、口径の大きさ（800mm以上）や埋設深度（3m以上）等の補助要件を満たしていないため、財源として見込んでおりません。</p> <p>リダンダンシーの確保は、将来にわたり水道水の安定供給を図るため必要な事業と考えておりますが、多額の事業費となることから、国庫補助制度の活用や適正規模での整備に努めて参ります。</p>